

**垂井町現庁舎敷地等活用のあり方 第1回ワークショップ
議事録**

日 時	平成30年8月25日(土) 13時30分～15時30分
場 所	垂井町文化会館 小ホール
出席者	竹内 治彦 委員長 永澤 幸男 副委員長 各連合自治会 各2名 各まちづくり協議会 各2名 一般参加者 1名 計29名
傍聴人	5名 (あり方検討委員会 委員)
内 容	1 開会 2 町長挨拶 3 委員長挨拶 4 ワークショップの説明 「垂井町現庁舎敷地等活用基本構想について」 「ワークショップの進め方」 5 グループワーク 「敷地利用の活用の方向性を話し合おう！」 6 講評 7 閉会

事務局	高橋、小森、平墳、西脇、西村
コンサル	佐々木、柴田、若松、長谷川 (マネジメント・アドバイザー)

事務局	<p>ただいまから、「第1回垂井町現庁舎敷地等活用のあり方ワークショップ」をはじめさせていただきます。</p> <p>本日は、大変多くの方にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>それでは、受付でお配りしました「次第」に基づきまして、順次進めさせていただきます。</p> <p>はじめに、垂井町長 中川満也が挨拶申し上げます。</p>
町長	<p>皆さま、本日はお集まりいただきありがとうございます。今日は現庁舎の跡をどう使っていくかということに対するワークショップを開催させていただきました。各地区まちづくり協議会、連合自</p>

	<p>治会の皆さまにお願いして参加をいただいているところでありますけれども、これに先立って今までも、がやがや会議等を開催してきました。7月20日には、現庁舎敷地等活用のあり方検討委員会を立ち上げまして、岐阜経済大学の竹内先生に委員長をお願いしたところであります。今日はその委員会の参考意見にするために、また、皆さまからより多くの意見を吸い上げるために開催したところであります。これまでに頂いた意見は、大きく3つくらいに分けられるのかなと思っています。(1) 地元の方がいかに効果的につかっていくか。賑わいとしてのまちの中心としての使い方。(2) 垂井町の外に向けての情報発信の場(3) 安全・安心を確保する場がこれまでに出了意見であります。まずはやはり、基本構想の中で方向性を示すことが大事であります。</p> <p>この今の庁舎は、明治15年に当時の郡役所が置かれたところから始まっています。昔の不破郡は赤坂・垂井・関ヶ原の3町で形成しておりましたが、中山道を中心に繋がっておりました。今の庁舎の地が当時は利便性が高かったという経緯で郡役所が置かれたと思っています。今こうした交通の動き等がかわってきた中で、庁舎が国道21号沿いに移転するということは時代の流れなのかなと思っています。ただ、現庁舎の跡は中山道の中心にあり観光の拠点でもあります。こういったところいかに利用していくか、そして、住民の皆さんが効果的につかっていけるかということを考えていかなければと思っています。今日は、各地区から参加いただいておりますけれども、垂井地区のことだからではなくて、垂井町のためにどう利用していくのかという視点も含めまして貴重なご意見をいただきたいと思っております。どうぞ宜しくお願いします。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。続きまして、当ワークショップの主催者であります垂井町現庁舎敷地等活用のあり方検討委員会を代表しまして委員長であります、岐阜経済大学 教授 竹内 治彦(たけうち はるひこ)先生からご挨拶いただきます。</p>
委員長	<p>皆さまこんにちは。垂井町現庁舎敷地等活用のあり方検討委員会の委員長であります竹内です。今日のこの会議では、皆さまから庁舎跡地のあり方についてご意見をいただく会です。今年度、何をしていくのかということですが、基本構想をまとめていくということになっています。基本構想でどこまで決めていくのかということが非常に難しいのですが、実は、大垣市の新庁舎基本構想の座長も務めさせていただきました。そのときの基本構想で定めたのが、「市民が集う庁舎」「誰にでも優しい庁舎」など、非常に一般的な内容</p>

	<p>なものです。この跡地利用に置き換えるとその程度でいいのかは前回のあり方検討委員会で議論したところなんですけれども、私なりに考えてみましたが、例えば、お金をどれくらいかけることが出来るのだろうかという経済性ということですね。一番お金をかけないというやりかたはおそらく、全部解体して更地にして売却してしまうことでしょうね。反対に一番お金がかかるのが、今の建物をしっかりと耐震補強して徹底的に使い切ると。現実的ではないですが。基本計画・基本設計の話にもなってきますが、その前段階としてどれくらいお金をかけていくのだろうか。いくつか大事な項目を挙げていただく中で、経済性の優先順位をつけるということも基本構想では大事なポイントではないかなと思います。</p> <p>また、今の庁舎の場所は垂井町全体からみると、町を代表する場所であったわけです。その場所に今後、皆さまがどんなことを期待するのか、町が発展していくためにはこの敷地がどういう役割を果たすべきなのかという方向性を定めることが基本構想で必要だと思います。</p> <p>最後にこれは垂井地区のひとに関わってきますが、庁舎機能、公民館機能が無くなってしまうと必ず賑わいというものは衰退してしまいます。違う施設・機能をここに入れていくというイメージを考えていくこともあるかと思います。</p> <p>これらについて、具体化する前段階の大枠を定めるのが基本構想なのかなと思っています。</p> <p>本日は皆さまに活用の位置づけについて議論していただきます。どれも大事だと思われそうですが、その中でも優先順位をそれぞれ決めていただければと思います。</p> <p>どうぞ宜しくお願いします。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。</p> <p>それではこれより、次第4以降、順にワークショップを実施していきますが、町長はこの後、公務がございますので、ここで退席いたします。</p> <p>(町長退席)</p> <p>それでは、ここからの司会（ファシリテーター）を、「垂井町現庁舎敷地等活用のあり方検討委員会」のお手伝いをしていただいております、中日本建設コンサルタントの方々をお願いしております。宜しくお願いします。</p>

	<p>(中日本建設コンサルタント株式会社の進行のもと、ワークショップの実施)</p>
<p>コンサルタント</p>	<p>それでは、お時間になりましたので、グループごとに選んだ活用思案、そしてそれに対する活用イメージについて順に発表をお願いします。</p>
<p>Aグループ</p>	<p>今回選んだ活用思案のまず1つめは、5番の防災関連施設の効果的な配置を選びました。全て同じですが、既設の建物は取り壊して更地にすることが条件で話します。広場を大きくとり、被害・防災拠点として利用する。今ある車庫は防災時の備品倉庫として活用できたらしたい。2つめは、12番の子育て世代を中心に幅広い世代が住みやすい生活サービスの提供。それにつきましては、これも更地にしますから、古民家等をどこかから探してきて、出来れば垂井にあれば一番良いのですが、古民家を移してきました、子どもから大人まで三世代が集まるような施設に出来たらどうかという意見が出ました。他には、住居、マンション等を建てて、利便性の良さから若い世代を呼び込めないかという意見が出ました。以上が2つめの意見になります。あともう一つは、8番の交流・集客イベントの場としての活用を選びました。これにつきましても、先程と同じように更地にしまして、楽市楽座等の簡単な建物を建てまして、出来れば利益を得て財政に貢献できるようにしたらどうかということです。全部含めてですが、建物につきましては、基本的にいかに安い施設を作れるかを考えたほうが良いという意見が出ました。以上でAグループの発表を終わります。</p>
<p>Bグループ</p>	<p>最初に選んだのは、1番2番の子育て世代の来なくなる所。そこを作っていないといけないという事で、駅にも近くここを更地にした上で、集合住宅等、子育て支援付きのものを作って人を集める。そういう場所に出来たらどうか。2つめに、9番の垂井曳やままつりを活かした観光戦略を、やはり垂井としてやっていく必要がある。ここも人を集めるために、曳やままつりとして、例えば屋台会館みたいな形で、3つの山がありますので、順番に展示したり、土産物センター等を作って活用できたらどうか。それだけではなく、垂井町のことを考えて、ここへ来れば垂井のことが分かる、宮代も含めて、まつり、いぶきもありますので、それらを紹介するコーナーを作っていく。例えば、中山道資料館がありますけど、あれも県</p>

	<p>に寄付するというような話もあるそうですが、やはり垂井に残してここで引き受けて発信することが大事ではないか。あと3つめに、1つめの人に来たくなるという事と違うが、住宅を建てるのではなく、更地にしてしまっ、防災の拠点というか、広場として残しておいたらどうか。ここが、垂井の町が、火事で有名、何度も焼けて無くなってしまっている所ですし、せつかく跡地が活用出来るのなら、そういう事に利用することも大事かなと。1つめと3つめは、まるっきり逆の考え方になってしましますが、どちらも考えられるかなという意見です。以上です。</p>
<p>Cグループ</p>	<p>Cグループは、5番と11番とその他ということで、意見がまとまりました。まず、5番の防災関連施設の効果的な配置という事で、災害時のための公共の場ですとか、将来は住宅等というような意見がありました。それから、防災訓練センターを作ったらどうかという事です。避難所設置・訓練だとか、防災関連器具を用いた訓練だとか、あるいは災害ボランティアの養成訓練をするような、防災に関する事を、垂井町は今までほとんど大きな災害が出ていせんので、その辺りの感度が鈍っていると思いますので、そういった物を用意して普段から意識していれば、いざという時に役に立つのかなと思います。それから、11番の子どもから高齢者までが安心して楽しめる場づくりという事で、映画館など上映できるような小さなホールはどうだろうか。習い事の発表が出来る小さなホール、カラオケ、それから垂井町民が気軽に出入りできる場所づくり。それと全天候、特に冬ですね、高齢者の交流場所となりうるもの。それから今日の事を思いますと、若い人達がいな。将来利用する人は若い人なものですから、もっと若い人達にも活用してもらえる場づくりが大事かなと思いました。そのためには、若い人達の意見をよく聞いて、決めていったら良いのかなと思いました。例えば、野外コンサートが出来るような場所ですとか、色々若い人の意見を重視して、どんな物を作っていったら良いか、決めたら良いのかなと思いました。それから、その他ですけども、我々の中では宿泊施設が良いなという意見が多く出ました。垂井町はですね、駅の周辺で昔ながらの旅館はあるのですが、大勢を収容できるような宿泊施設がありませんので、普段は観光客やビジネスマンの宿泊所として、災害時には避難所として利用できる、あるいは入浴施設もあつて、中には温泉にしても良いのではないかという意見もありました。それから、外国人向けの宿泊施設も良いなという事と、合宿所タイプの自炊できるような、フルサービスと選べるような宿泊施設があると良いなという意見が出ました。以上です。</p>
<p>Dグループ</p>	<p>2つのことを皆さんでまとめました。選んだ対応策の思案として1つめは5番。やはり防災関連のことですね。この防災ということも含めまして、減災ということも必要である。防災に関わってくると、1番2番にありました、若年層の方が魅力ある街として定住されるだろうし、子育て環境も出来るだろうし、色々な物が連携した対応であるかなと思います。この跡地をどうするか、という事にな</p>

	<p>りましたら、先程Aグループの方が言われましたが、全部更地にして備蓄の施設を作るなり、何か起きた時の避難場所にする。もちろん垂井地区だけになってしまいますが、そのように考えておかなければならないかなと思っております。それと2つめは、8番交流・集客イベントの場として活用したい。これはですね、色々な観光をやっている市町村が多いのですが、観光が1番収入になっている市町村が全国でいくつもあると思います。観光で受け入れることをやっている所は、町としても住民の意識が高いところが多いと私は認識しております。ですから、これをもう少し拡げて頂いて、交流・集客イベントの場として活用する。その中には9番10番が連携してまいります。垂井の曳やま及び観光案内所の方から、府中、宮代、色々な地域の方のお祭りをまず発信して頂く。そしてイベントをしますと垂井へ受け入れるという事になります。という事は、受け入れるという施設がほとんど皆無に近い状態ですが、これを成功させるにはどうしたら良いか。私の思案でございますが、各色々な地域の祭りにみえた方に、民泊として提供する。そして民泊をして頂いた家庭に対して、町は少しの補助をする。というこのサイクルで回ってますと、結構受け入れることの出来る垂井町になってくるのではないかなと思います。そういう事で、民泊というと、中々難しいように考えられますが、これで成功している市町村はいっぱい全国にあります。受け入れた家庭の方は、またやりたいという事で海外へ行ってホームステイをするのと同じですが、1泊2日や2泊3日でやって頂くと、それが垂井町の良い賑わいになるかなと思います。Dグループについては、5番の防災と、8番の交流・集客のイベントの場として活用したいという事でまとまりました。以上です。</p>
Eグループ	<p>Eグループで選んだのはですね、1つめと2つめと分かれておりますが、同レベルで考えております。1つめはですね、交流・集客イベントの場としての活用。これは人集めをしなければいけないという事で、垂井まつりとリンクしてやっていくという事。その中で出た意見はまず、観光協会というのは先程もDグループで出ましたが、人をいかに呼び込むかという事でございますので、観光業を発展させる。近くの海津市にお千代保稲荷という所がありますが、あそこは年間数十万人の方が来るのですね。特別宣伝はしていないようですが、我が町を見ますと、なんと5年間で1万人という、ざっとやっと1万人に達したというそんな状況でございます。人口でも2万8千あるので、もっと呼び込める可能性があります。その拠点として今の庁舎跡地を活用したい。そこで具体的なことは、観光協会では文化施設がたくさんありますので、その日帰りコース、1泊2日コースなど、色々な情報提供をする。そこでまた来たくなるような案内をする。1泊2日コースの宿泊地が先程ないということで民泊も良いかと思っております。宿泊地もこの中で、簡単なカプセルホテル等をぜひ作って頂きたいと考えております。全国この時期8月は白鳥おどり、郡上おどり、本日名古屋で行われているど真ん中まつり、という事で非常に踊りが盛んでございます。あれは極めて若い</p>

	<p>人達が活発に踊る、だから人が集まるのですね。白鳥おどりや郡上おどりは徹夜おどりでございますので、それはしれっと人が集まってくるわけでございますが、そういった垂井曳やままつりに踊りのイベントを上手くリンクさせていったらどうか。当然、お祭りですのでトイレが必要になります。トイレは今の庁舎をそのまま上手く当然増設はしないといけないと思います。防災についてもたくさん出ておりましたが、なぜ、あそこに新庁舎を作るかといったら、とにかくあの庁舎は耐震基準に達していないから移転するので、そこを防災拠点にしたら大変なことになります。それでしたら、更地化するのが一番良いかなという気もしますが、そこは中央公民館を更地化にしてスペースを作る。最後になりますが、3つめ、11番の子どもから高齢者までが安心して楽しめる場づくりという事で、お年寄りと子どもとの交流の場をいかに作るかという事で、「福祉関連総合センター」これは仮称でございますが、このような物を作って、いま垂井町で進めております「おもちゃ病院」があります。おもちゃが壊れた時には、シニアの技術を使っておもちゃを修理して子どもさんに渡してあげる。そうした物を大切にするという、こういった交流の場、老人と子どもの触れ合いとか、そういったかたちにぜひともここも進めていければという意見が出ております。以上です。</p>
<p>講評 (マネジメントアドバイザー)</p>	<p>皆さまいかがでしたでしょうか。自分達のグループごとに1時間ちょっと各グループ非常に活発な話し合いをしていただいて、各グループごとに頭の中で、こうやって使えたらいいかなというイメージを持ってもらえたかなと思います。その上で、他のグループの提案を今聞いていただきました。一緒だなと思うところや、違うけど面白いなと思う部分があったと思います。何となく皆様の頭の中に、スタートする前は跡地利用とは一体何だろうと思っていたと思いますが、この1時間半やってみると何となく頭の中に、こうやって使えれば良いのではないかな、面白そうだなというイメージが湧いてきているかなと思います。そういうのを上手く集約できればと思います。少し機械的に、1番～12番の集計をしてみましたので読み上げます。(1番：1、2番：1、3番4番：0、5番：4、6番7番：0、8番：3、9番：3、10番：1、11番：2、12番：1、その他：1) こちらは皆様の数字をただ単純に足しただけです。ですが、足してみただけでも、まず5グループ中4グループが5番である防災関連施設の効果的な配置をあげております。その中身を見ると、建物を作るというよりもあれだけ密集した町の中なので、災害に対応したオープンスペースをきちんと取るべきだと出ていました。これは大きな事で考慮すべきことかなと思います。次に多かったのが実は8番9番で、見てみると同じようなことです。この垂井宿のもってる歴史とか魅力を上手く活用して、賑わい空間を作りましょうという趣旨のものです。だから両方足すと、いわゆる6ポイントになるということで、これもやはり皆様の趣旨が高いかなと思います。最後はですね、11番と12番をあわせると3つです。これは子育て世代から、子ども、子育て世代、青年、高齢者といった</p>

	<p>人に優しい部分とか、生活サービスがきちんと出来たり、みんなが交流できたらいいなという所が、これらに次いで少し多い。何となくこのあたりが柱になってくるかなと思います。もう一つ大事なのは先程言いましたように、災害に対応できるオープンスペースが必要だといった所がですね、よくよく考えてみると災害が発生したときにそこは機能するのですが、平常時はただの広場なのですね。という事はその広場は、平常時は上手くいけば8番9番で皆様が提案している、町の魅力を活かした情報発信の場やイベントの場として使えば、普段はイベントをする場として有効に利用されてて、災害時は防災拠点としてきちんと使えるというような流れが、皆様の意見から見ると必然的にやはりそんなような使い勝手が必要なのだらうなと見えてきました。面白い意見もたくさんあったのでですね、またあり方検討委員会の方でこれをどうしていくか検討に入るとは思います。まずは私から総括としては、単純に皆様のお話と今での方向性が皆様のご意見が見えたという事を報告させて頂きたいと思います。どうもありがとうございました。</p>
<p>講評 (委員長)</p>	<p>皆さまお疲れ様でした。もう少しお話頂くのかなという所で早く終わってしまって、少し欲求不満があるのではないかなと心配しておりますが、皆様のご意見を拝見していて驚いたというか思ったのは、私実は今現在45ぐらいの委員をしています。色々な行政の色々なことを知っているつもりではいますが、今日皆様のご意見を見てなるほどというか、もう少しナイーブな意見が多いのかなというイメージでいたのですが、かなり熟慮されたご発言が多くて、しっかりと考えていらっしゃるなという風に思いました。最初の所ですね、一息ついた所ぐらいでテーブルの方を1枚目の紙の所で拝見させて頂いたのですが、皆様立って回っている方の声としては、こんなに意見が割れてたらどうするのとなっておりましたが、2枚目の所では今長谷川先生のお話にもありましたが、5番の防災の所が1番多いという風に出ています。それが選ばれ方として、そういう風なものなのかなというように受けとめとして、これが1番多いという所は、今後考えていく時には委員会の方としても、しっかり受け止めていかなければいけないという風に思いました。その後、5番が8番9番と結びついていくのではないかなと長谷川先生がおっしゃっていましたが、この部分についてはだいぶ先の、あと1年後ぐらいの議論という風に思っておりますので、もう少し包括的には賑わいという所では受け止めさせて頂きませうけれども、今日のところとしては防災のところでのご意見というものが、選んでいくとそういう所が残っていくということを受け止めさせて頂くという事と、賑わいというところがある程度求められるという事、それから今の庁舎をそのまま残してというご意見よりは、土地として使っていくというご意見の方が、比較的多く声としてはあったのかなという感じで受け止めて聞いておりました。これについてははっきり確認されている訳ではありませんので、また色々な形でこういう機会の中で、ご意見を頂戴しながらと思っております。全体的に非常に個別な意見という形ではなくて、全体を見渡したご意見をお聞き</p>

	<p>することが出来まして非常に参考になりました。ありがとうございました。</p>
事務局	<p>皆さま長時間にわたり、貴重なご意見をありがとうございました。利活用のあり方、方向性につきましては、本日の皆さまのご意見を踏まえまして、「基本構想」として取りまとめてまいります。</p> <p>基本構想の策定に向けた今後の進捗につきましては、随時、町広報及びホームページ等にて発信していきます。</p> <p>新たなまちづくりの拠点となれる利活用の方向性をしっかりと検討してまいりますので、皆さまのご理解とご協力を、重ねてお願いいたしまして、本日の「垂井町現庁舎敷地等活用のあり方ワークショップ」を閉じさせていただきます。</p> <p>本日はありがとうございました。お帰りの際は、交通事故等に、十分気をつけてお帰りください。</p>